

頑張れ日本、頑張れ気仙沼！



全国に漁民の森づくりが広がっていますが、その起源は気仙沼の牡蠣漁師畠山重篤氏が 23 年前に漁師が森を大切にすることで漁場がよみがえると植林をはじめました。ダム建設反対運動と環境啓蒙活動が始まりです。その時の合言葉が「森は海の恋人」です。

その活動を支えているのが NPO 法人森は海の恋人事務局です。

3.11 東日本大震災で木つ端みじん

「2011年3月11日におこりました東北地方太平洋沖地震による津波被害は甚大極まりなく、事務局、船、養殖イカダ等の施設が跡形も無く流されてしまいました。

森海スタッフは皆無事です。代表の畠山重篤一家は重篤氏の母が津波の犠牲になりました。その他の家族はとりあえず無事です。」

地震から2週間後に「森は海の恋人」スタッフブログ 周回軌道 に息子さんの畠山信さんからのメールを見た時には安堵したのと、津波の被害の大きさにびっくりしたものです。

苛酷なまでの震災復興と人々の絆をスタッフが綴っています

<http://moriumiblog.naturum.ne.jp/> ご覧になっていただけたら幸いです。(ブログ周回軌道より抜粋)



津波前の豊饒の海と漁船（水山丸）

穏やかな海では牡蠣やホタテ貝など養殖が盛んでした。



地震直後、船（水山丸）を沖に逃がそうとして津波の中に突っ込み大破。操縦不能になり海に飛び込み、大島に泳ぎ着き命は助かったものの、船体は行方不明になっていた。

先日、船の亡骸を発見、確認。

津波の影響で火の海になった気仙沼湾に浮かんでいたらしい。

そして岸に乗り上げ、凄まじい炎に焼かれてこの姿。

唐桑町舞根地区では五十二軒のうち四十四軒が流されました、ほんどの人が山に上がつて難をのがれたが、数名の方が亡くなられました。



日本という国は自然災害の起きる国なんです。そのことを改めて認識して、今後我々はどう生きていくかという問題を突きつけられていると思います。田舎町でも都会化が進むと大自然の怖さを忘れてしまいます。大自然に包まれることすら忘れてしまいまして。つくづく思ったのは、文明社会に生きてきて、このような災害時に何一つ役に立たなかつた。水も止まり、電気も止まり、結局、薪で暖を取り

り、鍋を釣るしてジャガイモを十日間主食にした。火を囲み焼酎を飲みながら今後のことをいろいろと語り合いながら、家族の絆、人と人の絆の大切さ、ありがたさを改めて実感した次第です。

木を燃やし暖を取り飯を炊くということは今後も大切にしていること、暮らしの中に取り入れようと決心しました。電気、ガス、水の供給が止まり北陸のまだ寒い三月は大きな気付きを与えてくれました。空気であれ水であれ、綺麗にしてくれるのもまた大自

然です。今まで私達は大自らが怒るようなことばかりしきました。このままではいけません。これからは大自然が喜ぶようなことしましょ

う。

山に木を植える「森は海の恋人」運動をここ二十数年やつてきて、海は海だけで存続しているのではなく、そこに注ぎ込む川の上流の自然環境を良くしていかないと、豊かな海はできないということを訴えてきました。日本海と太平洋に無数の川が流れ込んでいる日本の沿岸域は森と川の関係をちゃんととしておけば、植樹祭を通じて何事も部分的にやるのではなく、自然はすべてに繋がっている。海は恵んで、シンボルの大漁旗はすべて流され、今年は一枚だけやりました。

大津波で海は大破したように感じますが、海はほとんど壊れたわけではないのです。壊れたのは筏に船、作業場すべて人間の都合の部分です。こういうことがあるたびに、海に漁師はいなくなると言われます、そんなことは絶対にない誰かが必ず始めます。あんな災害に遭うと絶対どんな危険な場所には帰らないと

ところが、やはり海が見えるところに住みたい、小舟を浮かべ、釣りやアワビを捕つたりする生活に戻りたいと思うのです。やっぱりそれが、故郷だからでしょう。皆さんに共通しているのは「海に憎しみはない」ということなんですが、あれだけの波が来たのに、海面下の岩には海藻が付かわってはいません。

「森は海の恋人」運動の第一回として植樹祭を毎年六月の第一日曜日にやっていますが、さすがに今年は植樹祭どころではないってみんな言つていて、海は海だけで存続しているのではなく、そこに注ぎ込む川の上流の自然環境を良くしていかないと、豊かな海はできないということを訴えました。日本海と太平洋に無数の川が流れ込んでいたのですが、上流の岩手県室根町の山をお世話する方々が、「こういう時だからこそ震災から元気に立ち直るためにも是非やりましょう。」

ところが戦後拡大造林計画で何処へ行つても杉山ばかりで、外國との価格競争で負け放置され荒れ放題、そこへこの大震災が起きて、これか

広島西部口バスの会も6年目を迎え広大な面積を管理するようになりました。環境ボランティア団体として業務の大変さはよくよく理解できます。「NPO 法人森は海の恋人」事務局は大きな被害を受けましたが、今後もさらなる情報発信をお願いしたいし、いち早く活動再開していただきたいと思います。同じ植林活動のグループとして多少なりとご支援できれば幸いと思います。

今回集めさせていただきました、義援金は11月にまとめ「NPO 法人森は海の恋人」事務局に送らせてもらいます。

2001.10.16 第6回廿日市漁民の森づくり
広島西部口バスの会 代表 永本 清三

